第13分科会　社　会　性

研究課題

勤労観・職業観を育む キャリア教育の推進と 校長の在り方

Ⅰ　趣　　旨

我が国の社会状況は，少子高齢化社会の進行，厳しい就労環境による雇用の多様化，流動化の進行などの影響により，子どもたちの進路をめぐる環境は年々大きく変化している。このような時代にあって「職業観・勤労観の育成が不可欠な時代」を迎えている。

キャリア教育とは一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育である。働くことや職業に対する理解不足や安易な考え方など，若者の勤労観・職業観の価値観が十分に形成されていないとの指摘がある。キャリア教育は様々な学習や体験を通じて自らが考えていく中で，勤労観・職業観の形成・確立されていくが，「働くこと」にどれだけの重要性や意味を持たせるのかは，最終的に自分で決めることになる。

学校現場におけるキャリア教育の推進に向けて，校長の果たす役割と指導性について明らかにすることが本分科会の趣旨である。

Ⅱ　研究発表と研究協議

1　研究発表

「基礎的・汎用的能力の育成によるキャリア教育の推進と自校化に向けての具体的取組」
～「未来を拓く札幌人の育成」を目指す学校教育活動と校長の役割～
札幌地区　札幌市立美香保小学校　本間　雄一

2　研究の概要

(1)　小学校におけるキャリア教育について

～札幌市小学校長会の２年間の研究発表より～

①　小学校におけるキャリア教育の方向性

○社会性や自主性，関心・意欲・態度を養う
○職場体験だけに依らないキャリア教育
○ 自立するために必要な能力や態度を育てる

②　キャリア教育の在り方

○自己及び他者への積極的関心の形成・発展
○身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上
○夢や希望，憧れのある自己のイメージの獲得
○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

③　教育活動をキャリア教育の視点から見直す

○今すでにある学校の教育活動の見直し
○各教科に内在する「断片」を焦点化し，体系的・系統的に指導
○「基礎的・汎用的能力」を通して教育活動をとらえ直す

④　キャリア教育推進の課題

○教職員がキャリア教育の必要性を認識し，教育活動全体を通して実践
○家庭・地域社会との連携・協力体制づくり
○キャリア教育の活動がより効果的に推進できるようマネジメントサイクルの確立

(2)　キャリア教育の視点から自校の教育活動を振り返る

キャリア教育の視点とは，社会的・職業的自立を念頭に置きながら，子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方を持つこと。つまり「基礎的・汎用的能力」を育てること。

「基礎的・汎用的能力」とは，

○人間関係形成・社会形成能力
他者の個性を理解したり，他者に働きかけたりする力
○自己理解・自己管理能力
「やればできる」と考えて行動できる力
○課題対応能力
従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力
○キャリアプランニング能力
社会人・職業人として生活していくために，生涯わたって必要となる能力

(3)　地域社会などによるキャリア教育

子どもたちの勤労観や社会性を養うためには，地域社会との連携は切り離せない。「地域」を学び，「地

域の人」とのふれあい，「地域の仕事」を知り地域への誇り」をもつ体験活動。キャリア教育の視点から地域の様々な活動を体験させる。

事例１～地域を学ぶ・地域への誇りをもつ体験活動

「東区役所地域振興課の企画」→将来の町づくりの担い手となる子どもたちに地元の町づくりへの関心を高める。

事例２～地域・保護者の仕事を学ぶ体験活動

「小学校単Ｐの企画・地域企業の協力」→単なる職業体験ではなくリアリティーにプロのスキルを体験させる。

事例３～地域の子どもたちのつながりで学ぶ体験活動

「札幌市教育委員会，青少年山の家主催」→小学５年生と入学予定の年長幼稚園・保育園児の交流を異年齢の価値を持たせる。

(4) 校長の指導性を発揮し自校化を図るための取組（札幌市立小学校の実態から）

① 自校においてのキャリア教育の推進状況

進んでいる　16校（57%）

進んでいない　12校（43%）

② 自校化における推進上の課題

- 「組織」……18%
- 「概念の共有化」……82%
- 「校内研修」……46%
- 「家庭・地域社会・校種間連携」……29%
- 「評価」……36%

③ 自校化に向けての取組

- キャリア教育の概念の共有化を図る
- 校内研修会を行い，自校での取組を共通理解する
- キャリア教育の校内組織を置く
- 教育課程への位置付け
- 家庭・地域社会との連携を図る
- キャリア教育の評価

④ 校長の指導性の関わり

- 学校経営案の中にキャリア教育を位置付けする
- 取組を進めるために担当者及び校内組織の設置
- 地域や行政との連携の窓口
- キャリア教育に関する教育情報を全職員へ啓発

(5) まとめ

キャリア教育の自校化に向けて…

① キャリア教育を意識した取組を進めるために，自校の教育活動が，児童のキャリア発達にとってどのように生かされているのかという視点で見直す。

② 学校職員全体と概念を共有し，計画的な校内研修や地域社会と連携・協力して実践する。

3 グループ協議（８グループ）

(1) 討議の柱１

「キャリア教育推進における留意点」

○キャリア教育は今行っている教育活動の中に全てに含まれている。それらを四つの観点＜関わる，見つめる，決める，描く＞というプラス１で見直して，体系的，系統的に指導できるような計画を作っていくことが重要である。

○キャリア教育は人間関係づくりである。キャリア教育の計画はあるが，断片化したものをつなぎ全体計画を作成し，意識化して実践化する必要がある。

○子どもたちの夢のためにキャリア教育の現状を見直すという視点で考え，地域，子どもたちの実態の分析，教材の分析が必要である。各教科・領域を見つめ直した中で計画的に子どもたちに夢をもたせたいと願いながら教育課程への位置付けをして，全教職員が共有して進めていくことが重要である。

○体験・目的，発達段階にあった活動を取り入れて学ぶ意義をわからせることがキャリア教育。職業体験だけでなく，目的意識をもって学ばせることが大事である。

○教師の意識改革が必要であり，研修を進めながらキャリア教育のフィルターで断片をつないでいくことが必要である。小学校では職業としての体験よりも人としての生き方を学ぶ必要がある。

○働くことが誰かのためになっているという自己肯定感を育てていくことが必要である。

(2) 討議の柱２

「キャリア教育を自校化するための課題と具体的取組について」

○四つの能力を自分の学校の実態に合わせて具体化していく。教職員全員でねらいを明確にして指導計画を作成し，子どもの姿で評価する。校長は方向性と推進組織体を確立していくことが大事である。

○授業を行う中で講師に苦労や願いなどにも触れてもらうことを依頼する。授業計画を立てる教師には質問事項を送付する際にキャリア教育に関わることを加味させる。仕事に対する生き方や考え方を伝えていく必要がある。

○自校児童の実態を見つめ直して，管理職レベルで課題を明確化する。その課題を教職員に課題意識を共有化させる。解決の方策をチームや全職員で検討する。校長は軌道修正，話し合いのコントロールをして実践に結び付けていく。教職員にやらされ感からやりがい感をもたせることが校長の力量である。

○全体計画はあるが意識が薄い。断片的であり系統

的でない。それを打破するためには，校長がリーダーシップをとり校長の方針の明確化，先生方に意識化・意欲化を図る。また，校長の日常観察が大切である。何のために学ぶのか，学ぶ意義や喜びが大事である。そして，それが将来にどうつながるのか，「生きる力」を付けることが大切である。

○キャリア教育は学校教育の目標にある夢や希望で目指す姿を地域・家庭と協力しながら進めていく。保護者・地域への発信ということで保護者参加型の懇談を設けることで地域・保護者が動く。企画実行形のための4段階として「探る→つくる→やってみる→振り返る」でキャリア教育を概念化することは教育課程を見直す機会につながる。

○小学校においては社会人として基本を身に付けさせることが大事である。夢や希望を語れるとか自分が好きだという思いが子どもたちの中に育つことを日々の教育活動の中で実感できるとよい。

Ⅲ まとめ

勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進と校長の在り方→自校化への課題と取組

(1) キャリア教育の自校化

① キャリア教育の領域・能力を踏まえた子ども像
→基礎的・汎用的能力をもとに，社会性，自主・自立，関心意欲などを養うことをねらっている。

② キャリア教育の教育目標・経営方針への位置付け
→キャリア教育の共通理解と課題の明確化
教職員でキャリア教育の課題を共有し，具体的な取組につなげていくための方策の提示

③ 教職員の共通理解
→教職員がキャリア教育を正しく理解し，その必要性を十分に認識するために，学校経営方針への位置付け，校内組織体制づくり，校内研修の充実などがキャリア教育の自校化へつながる。例えば，学校ごとに「うごく力」「みつめる力」「かかわる力」「みとおす力」「いかす力」のように身に付けさせたい力を設定する。

④ 教育課程への位置付け
→キャリア教育の基礎的・汎用的能力は教科指導を含めた教育活動全体で育む能力である。教育課程への位置付けについては各教科，特別活動，総合的な学習の時間，道徳の時間，日常生活にキャリア教育の「断片」をつなげて，体系的・系統的に整理し，可視化することが大切である。

⑤ キャリア教育の実践
→学年ごとのキャリア教育年間計画表を作成し，基礎的・汎用的能力をどの活動で伸ばせるかを抽出し，各教育活動が子どもたちの将来にどのようにつながるかを考えて指導する。

⑥ 家庭や地域との連携・啓発
○日常生活や体験活動を通じて家族や他者の役に立つことの充実感を味わう。(家庭との連携)
○職場体験やボランティア活動などの場の提供依頼とともに子どもを地域の宝として，地域全体で育てていく環境作りをす進める。(地域との連携)

⑦ キャリア教育の評価，改善
→キャリア教育における活動が目的，目標を達成し，より効果的に推進するためにも，マネジメントサイクルの実施を図る。
○完璧な計画から小さな計画へ
○子どもに身に付ける力を焦点化
○地域の実態に合わせた計画で検証

(2) 校長の役割と指導性

○キャリア教育の理念を分かりやすく話す
○キャリア教育を進める手法も一緒に話す
○教職員のやる気や挑戦心のスイッチをＯＮにする

「第13分科会に参加して」

札幌市立円山小学校　**水　島　誠　治**

今回，研究発表は2段階に分けて提言された。本間雄一校長先生（札幌市美香保小）の発表①「この分科会における札幌市小学校長会の2年間の提言内容を踏まえた推進上の課題」は，校長として指導性を発揮していくためにどんな課題があるのかのガイダンス機能が高かった。グループ協議で司会を務めたが，キャリア教育の取組に学校差があったにも関わらず，グループ内の皆さんの心に火が点いた。発表②では，「キャリア教育を自校化するための課題と具体的方策」について，「4つの能力とキャリア教育の断片」として，それぞれに札幌市内の実践を結びつけて紹介された。特に「プラスＯＮＥ」として，「社会の教科」「道徳」「防災教育」を「キャリア教育のフィルターを通す」アイディアが盛り込まれていた。私たちのグループの方々から，「自校化」の取組の決意が饒舌に語られ，みんなで学校経営にキャリア教育を推進する具体的なイメージアップの企画書ができた。会の冒頭に趣旨説明をされた飯塚泰久校長先生（札幌市立白楊小学校）のまとめによって，各グループの発表における課題と意識の共有化がなされた。これまでこのキャリア教育に関わってきた自分ではあるが，発表者とこの分科会運営の巧みさに敬意を表したい。